JAPN320Sファイナル
ヘザー・オコネル　2016年12月8日

レッスンの内容

10個のレッスンをしました。普段、レッスンは金曜日でしたが、金曜日に休日が多かったので、最後の３週間に水曜日と金曜日にレッスンをしました。しかし、水曜日のレッスンの時間は金曜日より短かったので、「ミニレッスン」にしました。

１	日本の文化の紹介	６	体の部分	＊ミニレッスン
２	カタカナの名前	７	四季と色	
３	数字	８	顔の部分	＊ミニレッスン
４	折り紙	９	動物の鳴き声	＊ミニレッスン
５	妖怪	１０	復習パーティー	

初めてのレッスンでは、日本の文化を紹介しました。アクティビティはチーム競争なので、３つのチームに分けました。私達は日本の有名なことのプリントを子供達に目せて、プリントに印刷されたものの名前を正しく答えられたチームにポイントをあげました。ゲームの後で、皆で全部のプリントを復習して、私達はもっと詳しく説明しました。その後、簡単な言葉を教えました。例えば、「こんにちは、おはよう、ありがとう、おやすみ」を教えました。

次のレッスンのテーマはカタカナでした。私達はパソコンでカタカナで子供達の名前を書いて、印刷しました。レッスンの日に子供達に渡して、書き方を教えました。自分の名前をカタカナでの書き方をもう知っている子供がいました。私わ驚きました。しかし、カタカナのアクティビティの前に教室で大切なお願いを教えました。例えば、「座ってください、手を上げてください、静かにしてください」を教えました。

３回目のレッスンのトピックは数字でした。私達は日本語で数字を言うと同時に指を見せて、子供達を繰り返させました。１～５を教えた後で、復習して、そして６～

１０教えた後で、１～１０を復習しました。その後、子供達に３つのグループに分けて、スティックのゲームをしました。子供が数字の形が書いてあるスティック（例：１、２、３）を選んだら、日本語で数字を言いました。逆に、数字がローマ字で書いてあるステイック（例：ichi, ni, san）を選んだら、英語で数字を言いました。グループで、子供達は全部のステイックに書いてある数字を言いました。

４回目のレッスンでは、３つの折り紙の折り方を教えました。カエルと兜と風船の折り紙でした。子供達に集中するため、私達は３つのグループに分けて、私のグループに子供が３人いました。最初に兜の折り方を教えて、次は風船で、最後はカエルでした。折った後で、子供達はマーカーで出来た折り紙を彩色ました。子供達の想像力をよく見られました。例えば、風船がポケボールになったり、カエルはまっすぐではなく机の間のギャップをジャンプさせました。難しかったのは、折りながら折り方を説明することでした。私のグループに皆の速さが違ったので、平等に説明するのは難しかったです。

５回目のレッスンのトピックは妖怪でした。日本の妖怪を学ぶ前に、子供達は自分の生活にどんな妖怪がいるのか、を考えました。次に、私達はかっぱと鬼と狐についての話を教えました。しかし、グループではなく、３つのステーションを作りました。１つのステーションで一人の先生が座って、子供達がステーションを回りました。私のステーションで子供達はかっぱについて学んで、かっぱの面を作りました。作りながら、たくさん質問をしまして、とても興味を持っていました。

６回目のレッスンでは、体の部分を御足得ました。ミニレッスンなので、「頭、肩、膝、足」という歌しかしませんでした。日本語の言葉を教える前に、歌の英語版を復習しました。次に、黒板を使って、日本語の言葉を１つ１つ教えました。そして、歌

を練習しました。言葉だけではなく、歌の行動も練習しました。次回のミニレッスンは顔の部分なので、歌の後半（顔についての分）をあまり練習しませんでした。

７回目のレッスンのテーマは四季でした。４つの季節と６つの色の言葉を教えました。言葉を教える時に黒板とカードを使いました。黒板に英語と日本語を書きましたが、大きいカードの表に英語を書いて、裏に日本語を書きました。私は黒板を使って言葉を教えた後で、カードを使って子供達に質問をしました。例えば、カードの表を見たら、日本語で答えを言いました。その後、３つのグループに分けて、言葉合わせのゲームをしました。小さいカードを使って、日本語のカードと英語のカードを合わせないと、ポイントをもらえませんでした。ゲームの後で、子供達は着物の絵にマーカーで色と柄をつけました。皆の着物はとてもユニークでした。

８回目のレッスンはミニレッスンで、６回目のレッスンの続きでした。黒板に顔を描いて、線で顔の部分と言葉をつなぎました。顔の部分の言葉を１つ１つ教えた後で、顔のアウトラインを残すように顔の部分を消して、福笑いというゲームの仕方を示しました。そして、子供達はペアで福笑いをしました。ゲームをするために「上、下、右、左」の言葉も教えました。

９回目のレッスンもミニレッスンで、トピックは動物でした。犬と猫、ライオン、ネズミ、カエルの名前と鳴き声を教えました。黒板に動物の絵を描いて、絵の隣に吹き出しの中に鳴き声と書きました。言葉を教えた後で、黒板に言葉を消して、動物の絵に指をさしながら、子供に鳴き声を聞きました。そして、７回目と同じく言葉合わせのゲームをしました。

１０回目のレッスンは最後なので、復習や文化のパーティーをしました。最初に、言葉を復習しました。１回目のレッスンの挨拶や３回目のレッスンの数字、７回目

のレッスンの四季と色を復習して、テストしました。ミニレッスンは普段と違う日に行われて、皆が来られなかったので、復習にミニレッスンの内容がありませんでした。復習の後で、文化のパーティーをしました。着物や妖怪、折り紙、ジャンケン等の文化のアクティビティを用意しました。子供達はやりたかったアクティビティによってグループに分けて、選んだアクティビティをしました。私はジャンケンをしたかった子と一緒にやりました。普通のジャンケンだけではなく、「あっち向いてホイ」と「ティックタックトー」のジャンケンゲームもしました。一人の子がジャンケンをやりたかったので、ジャンケン列車が出来ませんでした。最後の日として、うまくいきました。

レッスンだけで必須の時間が足りないので、レッスン以外に宿題の手伝いもしました。特に数学や文を作ることの宿題でした。ただ答えを出すのがよくないので、いろんな方法で子供達から答えを引き出しました。例えば、子供が言葉の意味を知らなかったら、私はその言葉を使う例文を作って、子供が例文からその言葉の意味を当てました。このような間接的な方法は時々難しかったですが、ただ答えを出したら、子供が何も学ばないと思います。

アウトカムの反省

最初に、１つ目のアウトカムは自己認識と社会意識と言います。キング小学校の周囲に低所得層の家族が住んでいます。低所得層なので、非必須で余計なことをしないかもしれません。サービスラーニングの目的は生徒たちに日本語を学ぶという新しい機会を提供することです。それに、子供達が地域や文化について考えられるようにすることです。サーブスラーニングを通して、私達は異文化の多様性を表したり、生徒たちのステレオタイプを壊したり、授業の枠を超えて続いていく価値観を育てたりしたいです。

２つ目のアウトカムはサービスと社会的責任と言います。日本語のレッスンで、子供達をグルーバル社会に目を向けさせました。日本語と異文化を学ぶことで、その子達は国際的な考え方を育て始めたので、将来グローバル市民になりやすくて、グローバル社会に住むことができると思います。それに、CPYは安全な場所なので、子供達が心配なしにいろんなことが学べたり、手伝いをもらえたりします。CPYは礼儀や言質などの大事なスキルも教えます。このスキルはいろんな利用があるので、卒業しても、子供達はそのスキルを使います。そして、子供達は一人一人異なると認めるのがいい先生の特徴だと思います。子供たちはそれぞれユニークな事情があるとわかったら、関係が良くなって、もっと影響を及ぼすことができると思います。

３つ目のアウトカムはコミュニティーと社会正義と言います。キング小学校のコミュニティーは低所得層なので、低所得層ではない家族と違うリソースを持っているはずです。例えば、低所得層の家に子供は自分の勉強机がなくて、栄養のある食事をしなくて、誰にも宿題を手伝ってもらわないかもしれません。平等な機会を持つために、CPYはその低所得層の子供を援助します。例えば、勉強する場所を与えたり、宿題を手伝ったり、栄養のある食事をさせたりします。私達も日本語のレッスンをすることで援助しました。レッスンに参加した子供が少なかったので、私達はそれぞれ子供に注目して、手伝うことが出来ました。低所得層のコミュニティーなので、小学校の授業に子供が多くて、先生がそれぞれ子供に注目できないはずです。子供として、私達から注目しもらうことが好きかもしれません。

最後に４つ目のアウトカムは異文化のコミュニティーの発展とシビック言質と言います。私達のレッスンでは異文化の知識を育てることと異文化を重んじることを励ました。それに、私達のレッスンでは子供達が感想や意見を表すことも励ました。子供達

はレッスンで学んだことと自分の文化（特にメキシコの文化）の関係を考えました。例えば、「猫」と「cat」と「gato」をつなぎました。文化以外に、私達は子供達に大事な社会政策や方法も教えました。例えば、人と人の関係を重んじることです。レッスンでは、私は一人の子供の質問を答えながら、他の子供に質問されました。私は順番に子供たちを答えましたが、割り込んだ子供を認めないと、その子が無視されたと思うかもしれないので、私は「ちょっと待って、この子の質問を答えています」と説明しました。私がしたような行動で、割り込んだ子供が自分の礼儀正しくない行動を分かるようになったかもしれませんでした。それを理解すれば、その子のコミュニケーション力や協力が上達して、社会で上手に交流できると思います。

学んだこと

サービスラーニングの経験を通してたくさん学びました。特に子供を管理する方法とレッスンの準備について学びました。レッスンで使った管理する方法はグループに分けることやペアで活動すること、行列ですること等でした。例えば、１つの大きいグループで子供達がよく聞こえなくて、すぐ気を散りましたが、３つの小さいグループに分けたら、私達の先生が一人ずつ小さいグループに集中できました。小さいグループで子供達の質問を答えたり、子供達の興味を引いたりすることがやすくなりました。それに、色々な場合を対処する方法も学びました。例えば、子供達は集中できなかったらどうするのか、一人の子供のレベルが皆と違ったらどうやって手伝えばいいのか、と言う問題です。将来、この方法はとても役に立つと思います。

レッスンの準備の難しさと大切さもよく分かるようになりました。特にレッスンプランです。レッスンの中で日本の文化や言語、国際的なスキル、異文化等のことを教えたいので、準備に時間がかかります。それに、実際にレッスンをする時に期待してな

い問題が起こるので、場合によってレッスンが計画通りに進みません。しかし、そのような問題を期待してみて、レッスンプランに取り入れることが出来ます。それも、難しくて、時間がかかりますが、準備をした方がいいです。とても大切だと思います。レッスンプランや活動の仕方、資料だけではなく、教室の準備も大切です。例えば、レッスンの始まりに子供達と一緒に机を移動するのはよくないです。なぜなら、時間がかかって、子供達は気が散るからです。だから、子供達が教室に入る前に机を設定したり、黒板に書いたりした方がいいです。

レッスンの活動から学んだことだけではなく、サービスラーニングの授業で勉強したリーディングから学んだこともあります。特に言語と共に文化を教えることの大切さを学びました。同時に教えたら、学んだことが覚えやすくて、頭に印象を残すと思います。同時に教えなかったら、子供達は全体的に知識が広めないと思います。例えば、私達は日本の妖怪について教える時に、妖怪の名前だけではなく、関する言葉も教えました。私は「かっぱ」以外に「川、池、さら」等の言葉を使いました。先生として、文化と言語を同時に教えることの大切さが分からないと、いい先生になれないと思います。

個人的に、アクティビティを作るのは楽しかったです。私はCSUMBのCLCでチューターの仕事をしていますが、子供に対するアクティビティと大学生に対するアクティビティは大分違います。子供に対するアクティビティを作るのは初めてではありませんでしたが、こんなにたくさんアクティビティを作って実際にするのは初めてなので、このサービスラーニングの経験は非常に大切だと思います。

What you did

- 宿題の手伝い
- レッスン
    - 日本文化の紹介・カタカナの名前・数字
    - 折り紙・妖怪・体
    - 色と四季・顔・動物と鳴き声
    - 復習

1 Self & Social Awareness

- 目的は生徒たちに日本語を学ぶという新しい機会を提供すること
- 地域や文化について考えられるようにすること
- 異文化の多様性を表す
- ステレオタイプを壊れる
- 価値観を育てる

2 Service and Social Responsibility

- 子供達をグローバル社会に目を向けさせること
    - グローバル市民になることの安さ、グローバル社会に住めること
- CPYは安全な場所を与えること（短期）
    - 子供達は心配なしに学べること
- CPYは礼儀や言質などの大事なスキルを教えること（長期）
    - 色々な利用があるスキル

- 子供達はひとりひとり異なると認めること
    - 子供達はそれぞれユニークな事情があると分かること

3 Community & Social Justice

- キング小学校のコミュニティーは低所得者
- CPYと私たちはこの児童たちを手伝うこと
- 私たちのレッスンがないと、児童たちは日本語の課外授業をできないこと
- 教室には児童が多くないので、それぞれの児童を手伝うことの易さ

4 Multicultural Community Building & Civic Engagement

- 異文化を認める
- 思いを分け合う
- 異文化を重んじる
- 毎日、組むと手伝うことを教える

What you learned

- CPY
    - 子供を管理する方法
    - 準備の難しさ、大切さ
    - 言語と共に文化を教えることの大切さ（逆も同様）
- リーディング
    -